

令和7年度 石山中学校 学校教育評価書

評価の基準（3:よくできた 2:できた 1:あまりできなかった 0:まったくできなかった）

項 目			評価の観点		自己評価 (3・2・1・0)	自己評価	学校関係者評価 (3・2・1・0)	委員のご意見・ご助言・ご感想	今後の改善策	
主体的・対話的で 深い学び		1	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	2	○協力して役割を果たし、充実感を得る姿が見られ、継続した集団づくりの成果が表れている。 ○けじめとぬくもりのある授業づくりにより、生徒が安心して学べる環境を実現している。	3	○参観の折に感じるが、タブレットは上手に利用できている。 ○授業実践につながる生徒の課題共有、育てたい力の確認が大切で、授業改善に向けた語り合いが活発化されている。引き続き教員全体に広げられるとよい。 ○授業力向上について、引き続き一緒に学びを深めていきたい。	○学期末の学活や学級会を自主的な意見交換の場として継続し、次への課題解決にもつなげる。 ○班活動は定着しているが、学びを深める機会や固定化された人間関係の改善をさらに進める。 ○石山中として話し合い活動の共通フォーマットを作成し、教員・生徒が同じ方法で取り組む。		
		2	協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善(ICTの活用含む)	2						
		3	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	2						
道徳教育の充実		4	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	2	○生徒は学校生活に満足し、いじめをなくそうとする言動も見られ、道徳的実践が生活に生かされている。	2	○校内の掲示物で、生徒自身にもいじめ防止が喚起されている。 ○教材の工夫、道徳教育による効果の発信も必要であるが、生徒が感じ取った学びを保護者に発信できるような取組があるとよいのではないかと。 ○教科だけでなく、人との正しいかかわり方を繰り返し伝えていくことが大事だと思う。 ○ふれあい活動の時など、年下の子にとてもやさしい言動が見られ、心が育っていることがわかる。	○道徳教科書の多様な視点を利用し、教科書を基盤に実態に応じた教材研究を行う。 ○道徳の評価方法について、学校全体で年1回程度の研修を行う。 ○教科書以外の教材活用、掲示物による道徳コーナー設置、いじめ問題の扱いなど、環境・内容の工夫の検討をする。		
		5	ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	2	○学年単位で授業改善を相談しながら進められており、この取り組みは継続したい。 ○保護者により多く来てもらう工夫や、教員同士の相互参観・意見交流の機会を設けることが必要。					
		6	保護者等への道徳科の授業公開	2						
人権教育の充実		7	一般的な人権・個別の課題への取組について	2	○GOI5!ワーク石山が人権教育そのものであり、生きる力の基礎となる人間力(意欲・協調性・根気・自制心等)を育てる取り組みとして、全教職員が意義を理解し共有したい。 △他者を大切にできる生徒(人材)を増やすため、人権感覚と温かい心の育成を強化したい。	2	○GOI5!ワーク石山が3年間行っているということは引き続き大切にしてほしい。 ○人とつながる、人を生かすためには、教師の人権感覚や言葉の使い方がとても影響すると考える。何か積み上げていけるとよい。 ○人権は育ってきた環境によっても差が出てくると感じている。継続的な研修において周知することの大切さを感じる。	○系統的で一貫した人権教育の方針・柱を学校全体で構築していく。 ○生徒会の人権活動の時期と連動させ、学校全体で集中的に言葉づかいを見直す取り組みを行う。		
体力づくり		8	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	2	○運動が苦手な生徒も、めあて設定や振り返りを通して主体的に体育へ参加できている。 ○ケガ防止のための予防的指導が行われており、安心して活動できる環境づくりに寄与している。 ○なるべく体を動かす時間を確保するために、授業でさまざまな工夫がされている。	3	○フェスタスポーツの部でみんなが楽しむ姿で学校の雰囲気がよくわかる。 ○授業数、部活動時間が限られる中、体力維持への取組は難しいと思う。授業の合間、始まりにストレッチで体をほぐす等すると、体のしなやかさが保たれ、同時に集中や意欲を促すことにつながると思う。 ○部活動における負担が大きくなっているのではないかと感じる。 ○生活習慣の改善が大事。	○部活動の外部委託や学校との役割分担について、今後の方針を検討する必要がある。 ○生活習慣改善や食育推進には家庭・地域の協力が不可欠であるため、放課後・休日の過ごし方も含めた支援を考えていく。		
		9	体力づくりを推進する運動実践	2						
		10	生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	2						
指導改善 (組織的・計画的) 校内研究		11	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	2	○令和3年度からの継続的な研修により、生徒の学力向上をめざした授業力の向上が見られる。△研究主任の主導のもと、同教科教員が互いに授業を参観し合い、授業改善につなげる仕組みが望まれる。 ●現在の研修の継続とともに、教員の働き方改革と働きがいをもまく調和させることが課題である。	2	○保護者の意見にもあったが、宿題は必要なのではないかと感じる。 ○生徒自身の評価から、学習や生活への意欲向上が伺え、教員評価からも目標の共有化による手応えが感じられる。とても大切なことである。	○小中連携をテーマに掲げ、教科や分掌を超えたプロジェクト型の取組として組織的な教育力向上を図る。 ○柔軟な日課運用や勤務時間内での部活指導により、業務時間確保と教育活動の質向上の両立をめざす。 ○学期に1回、生徒による授業アンケートを行い、校内研究テーマと照らし合わせて全体の授業改善に活用することを検討していく。		
		12	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	2						
		13	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	2						
読書活動の充実		14	生徒の読書活動を進める体制づくり	2	○図書館司書の来校により、図書室環境の整備や新しい取り組みが進み、図書室を訪れる生徒が増えた。 ○図書委員会や校長先生、司書等が読書を楽しむ工夫を多く取り入れており、読書文化の広がりに貢献している。 ○地域・保護者と連携しながら図書室運営を進め、生徒の居場所として常時開室できる環境を作り、将来的には地域にも開放できる場とすることが理想。	2	○司書がついたことで改善されたことは多いと思うが、司書なしでも継続できるよう願っている。 ○図書室に伺うたびに、本を手に取りたくなる思いとともに、居心地のよさを感じる。ほんのの心に残るような一文を廊下に掲示するなど、目に留まる場、心が動く機会を作れるとよい。 ○図書館司書の存在が大きいことを実感する。図書室の校舎内での位置と開室日が大事。	○読書調査の不読率が非常に高いため、朝読書や読書週間の設定の仕方や、地域ボランティアに協力を得て図書室を毎日開館する取り組みを検討する。 ○図書室前の掲示物を工夫し、利用しやすい環境を整える。		
育ちと学びを支える連携										
①	家庭・地域との 連携・協働	15	子育てや家庭教育に対する 保護者への積極的な支援	2	○地域と関わる活動が充実し、生徒の中に「地域に役立ちたい」という思いや地域への誇りが育まれている。 ○生徒会が中心になった地域への感謝の取組は非常に良く、今後も「夢プロ」の核として継続したい。	2	○生徒会中心に地域へ感謝を伝えてもらい嬉しかった。保護者の方も一緒にできたらもっと良い取組になるのではないかと。 ○生徒会の取組が是非地域や校園に広まり、つながりを感じることができたらうれしい。生徒自身の手ごたえがこれからの地域の活性化につながると思うので、小さな一歩でも運営協議会が発信できたらと思う。 ○PTA活動の在り方については難しさを感じる。 ○PTA活動について、今の時代に合った活動を考えていかないと難しい。	○保護者が参観しやすい時間設定や、保護者が参加できる取り組みを今後増やすことを考えていく。 ○保護者への継続的な支援を行い、研修会や講演会への保護者参観の機会も検討する。		
		16	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	2						
		17	防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	2						
	②	保幼小中の 連携	18	子どもの校種間交流や教員の出前授業	2	○互いの授業参観を通して交流が進んでおり、来年度はさらに小学校との校内研連携を広げたい。 ○石山の子どもを支えるために、小学校・中学校の子ども同士、教職員同士が気軽に交流できる仕組みを継続したい。 ○交流機会は多いが一貫した教育活動に十分活かされていないように感じるため、「一緒に石山の子を育てる」という理念を改めて共有したい。	3	○多忙な中ではあると思うが、お互いの行事を見るなど、できそうなことはあると思う。 ○生徒指導面での連携では、考えや取組を共有する機会作りが必要。今年度は実現できなかったが、次年度は、理科、英語などの先生による出前授業をお願いしたい。 ○保幼小で今年度は梯プロジェクトを進めている。小中でもそのような取組があると明確になるのではないかと。 ○小中で交流はできていると思うが、もっと互いに理解し合い、自信の持てる連携を進めていきたい。	○教務主任・研究主任を中心に、重点指導内容や指導方法の改善に向けて研究を進めていく。 ○各分掌間でも小中連携をさらに広げる余地がある。	
			19	校種間の授業公開や合同研修会	2					
			20	保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	2					
組織的体制の充実										
①	生徒指導体制 の充実	21	いじめや暴力行為、不登校等生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導 ※	3	○生徒指導主事や子ども支援コーディネーターを中心に、関係機関・学年間で密に連携し、生徒・保護者支援をチームで行っている。 ○日々の丁寧な指導・関わりで、生徒・保護者との信頼関係が生まれ、早期発見・予防指導につながっている。 ○生徒指導主事からの適時の注意喚起があり、予防的な生徒指導が効果的に行われた。 ○学年生徒指導、主事、管理職との連携が密で、大きなトラブルに発展しにくい体制が維持されている。	3	○生徒指導面で小学校との連携を深くする必要があると感じる ○生徒、保護者、教師すべての評価が全体的に高評価だったことは、学校管理運営の基盤となる日常の教師間の連携、違いをとらえた予防的対応力の表れだと思う。 ○子どもたちが主体的に動きかけている学校だと感じる。	○生徒会・学級活動を中心に、生徒自身が学校をより良くしようとする自治活動を強化したい。 ○「報告・連絡・相談」が有効だったが、情報共有の徹底や自分事としての意識を高めていく。		
		22	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進 ※	3						
		23	家庭・地域・関係機関との連携による指導	3						
	②	特別支援教育 の充実	24	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	2	○支援部会での共通理解や、通級指導教室担当との連携が効果的に進んでおり、個々への理解が深まっている。 ○支援を必要とする生徒・保護者が増えており、特別支援コーディネーターの役割がこれまで以上に重要になっている。 ○支援計画作成の流れとして、懇談会と別に面談期間を設けることが望ましく、保護者との協働体制を強化したい。	3	○授業の中での個別最適化、個別の支援計画の活用は難しいだろうと感じる。 ○各校園での特支教育体制を知る機会があれば参考になってよいと思う。	○基礎基本の定着が不十分な生徒の原因把握について、担任・教科担当が連携し、LDなど発達課題も視野に、保護者と協力した支援をしていく。 ○個別の支援計画が担任任せになることがあり、教科担当や学年全体での共有、閲覧しやすい仕組みづくりを検討する。	
			25	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	2					
			26	関係機関と連携した相談体制の充実	2					
	③	教育相談体制 の充実	27	SCの活用	2	○時間的にSCとの連携が取りにくく、コンサルテーションが勤務時間外になる。 ○教育相談期間の放課後は、生徒指導対応や委員会活動当と重なり、予定通りの時間を確保しにくい。 ○教育相談期間の間は、顧問業務を軽減できればと思う。	3	○時間確保がしにくい中、丁寧に一人ひとりへの支えをしていると思う。 ○保護者対応と業務の負担(部活動等)本当に大変だと思う。保護者の要求も年々高まっている気がする。 ○子どもの声、保護者の悩みに寄り添うためにSCの有効活用がされているとよい。	○情報共有を徹底する必要がある。漏れや、人任せになっている状況が一部で見られる。	
			28	組織的な教育相談体制の確立	2					
学校満足度		29	児童生徒の学校満足度	2	○3年生ではすべての項目で満足度が上昇しており、教育活動が生徒の成長とともにより良いものとなっている表れである。 ○日々の教職員の指導や関わり、仲間との関わりの中で学校への信頼感が深まり、学校生活の充実につながったと考える。 ○生徒の人懐っこい性格によって、学校が助けられている部分も大いにあると感じる。	3	○生徒の大部分は学校生活を楽しんでいるように思う。 ○日々の生活への安心感、人と暮らす心地よさが何よりのベース。多感な時期の学校満足感が高いことは素晴らしい。 ○本当に人懐っこい生徒が多く、楽しい雰囲気が感じられる。	○今よりさらに楽しみながら、さらに学力を伸ばせる方法を常に考える。		

※	児童生徒アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.49
※	保護者アンケートのすべての評価の平均値(3点満点、小数第2位まで記入)	2.12